

200

こんにちは。塾長の大井です。

5期生受験戦記第5回です。

私と田宮は色々対照的で、補完性のあるコンビだと思いますが、根本の価値観や信条はぴたりと重なり合っています。何事においても2人で話し、2人で悩み、2人で試行錯誤を重ねながら勝ち残ってきました。そんな我々の最大の共通点は、人並み外れて負けず嫌いである点と、何事につけ途中で投げ出したことがない点です。

前者は勝負の世界において不可欠な資質ですが、後者は人生のスタンスとしてもとても大切なものだと思います。

先日、TOPを途中で辞めた5期生の2人の教え子が相次いでTOPを訪ねて来てくれました。中学生になった彼らはいくぶん恥ずかしそうに、それでも懐かしそうにTOPにやって来ました。1人はTOPを続けていたらなあと何度も思ったそうです。1人はTOP通塾時、入口の前で「この塾メチャクチャすごいらしいよ。」と話すのを聞いて、とても誇らしかったと言っていました。途中で終わったとはいえ、彼らのTOPでの

日々が、どこか大切な未来につながっていくことを祈っています。

一方、TOPで受験を全うし、卒業した生徒はたとえギリギリでの合格であっても、繰り上げでの合格であっても、入学した学校で上位に駆け上がっていったという報告をよく聞きます。しかも最難関校です。それもTOPでの切実な日々が、風化してしまう過ぎ去ってしまう日々ならず、入試の先にも繋がっている気がして、とても嬉しく思います。

続けるか降りるか。そんな岐路に立った生徒は、5期生の中にもいました。

まず1人目はYくんでした。

自分は全くすごくない。そう悟ったMさんが持ち前の負けず嫌い、授業で分かる楽しさを原動力にグングン力をつけていったのとは対照的に、天才肌のYくんは本当にのんびりしており、マイペースを崩しませんでした。

授業は楽しむ。でも、それを定着し磨く課題はカタチ程度にしかしない。

まだまだのんびり進んでいく4年生の時間軸の中でも、そんな彼のマイペースは際立っていました。

そして5期生が5年生になろうかという2月3日のことでした。その日

は、TOP から初の開成中を受けた生徒の合格発表当日でした。1秒1秒が永遠にも思える、息苦しい程の濃密な時間の中、「開成中学、間違いなく合格しました。」というメールの文字が飛び込んで来ました。泣きました。田宮と抱き合って、「やった。やったよおお。」そうして泣きに泣きました。

そんな特別な日だったので、Yくんの退会の瞬間はよく覚えています。ゆっくり自分のペースでやりたい。それがYくんの退会の理由でした。

「開成中合格、おめでとうございます。お二人はいつも結果を出しておられる。」お父さんのメールの文面は、今もハッキリと焼き付いています。

Yくんは去りました。それでも運命のいたずらか、開成中合格の恩寵か、Yくんとの物語はそこで終わりはしませんでした。

(第6回につづく)

2019年6月10日

大井 雄之